

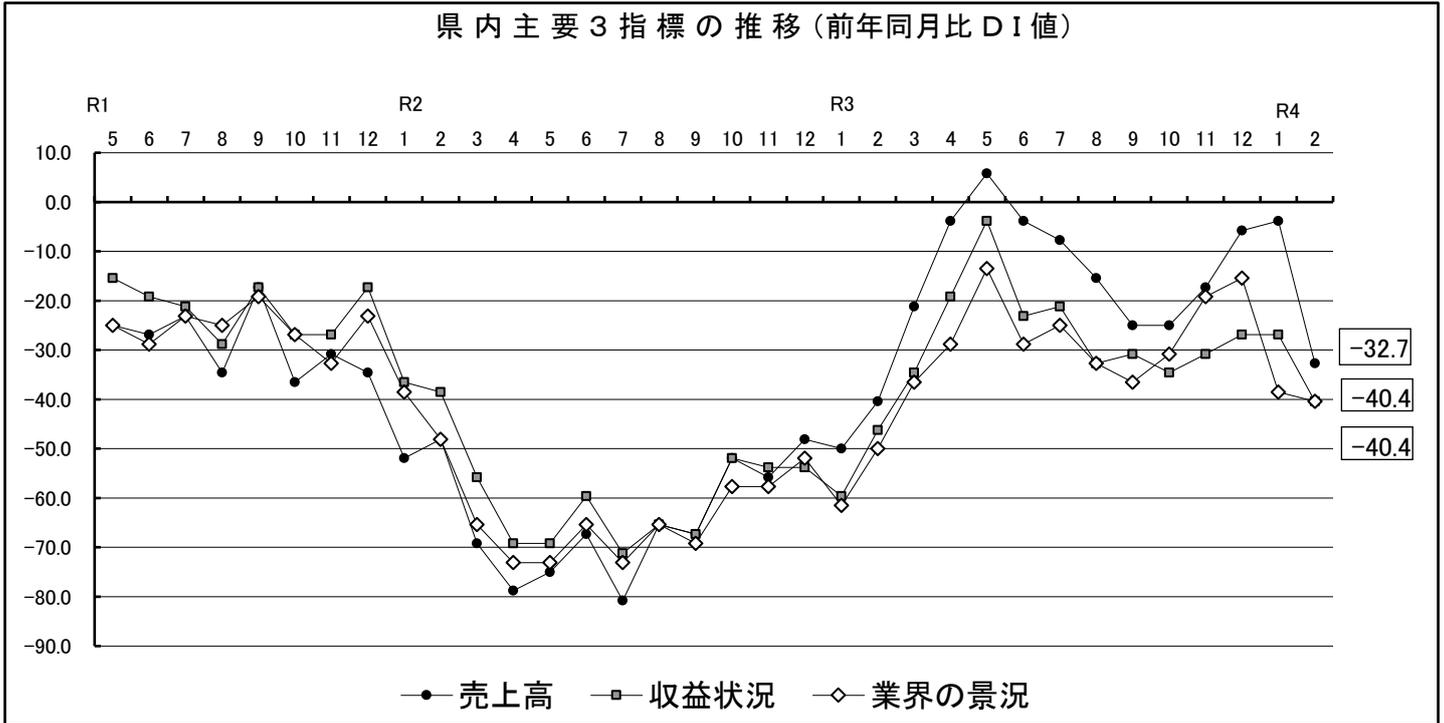
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和4年2月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標すべてが下降した。特に「売上高」が大幅に下降している。
- 依然として製造業で「食品品製造」、非製造業で「小売業（飲食業含む）」「運輸業」が特に厳しい状況。
- 感染拡大に原材料高騰やウクライナ情勢も加わり、先行き不透明感が強まっている。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-32.7	-28.9	-18.2	-3.4
収益状況	-40.4	-13.5	-36.9	-3.9
業界の景況	-40.4	-1.9	-36.9	-5.5

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より28.9ポイント下降し、-32.7ポイントとなった。全国においては、前月より3.4ポイント下降し、-18.2ポイントとなった。

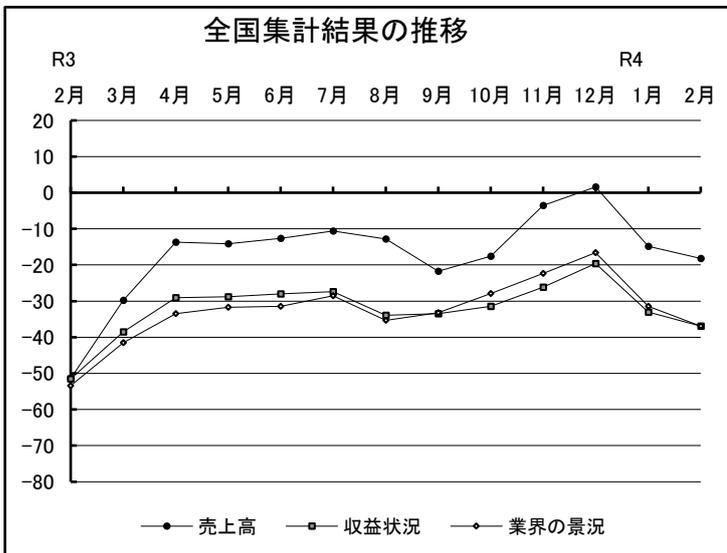
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より13.5ポイント下降し、-40.4ポイントとなった。全国においては、前月より3.9ポイント下降し、-36.9ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より1.9ポイント下降し、-40.4ポイントとなった。全国においては、前月より5.5ポイント下降し、-36.9ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概 況-

2月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中1指標が上昇した。主要3指標は「売上高」は28.9ポイント下降、「収益状況」は13.5ポイント下降、「業界の景況」が1.9ポイント下降となった。

業種別・指標別にみると、製造業全体では「食料品製造」で「売上」が大幅に下降し厳しい。また、「木材・木製品」ではウッドショックの影響は未だ収まっておらず販売価格を上昇する企業が増加している。「一般機器」においては、前年同月と比較し一部に好転したとの報告もあるが、資材の高値安定や半導体不足等の影響が続いており、収益状況は厳しい。非製造業においては、やはり「小売業(飲食業含む)」と「運輸業」で依然として厳しいマイナス状態が続いている。

オミクロン株の感染拡大が止まらず、まん延防止等措置も延長になったことで、「売上高」、「収益」が大きく悪化に転じた。各業界からは、原材料の高騰による収益圧迫や部品の調達不安等の声が上がっており、今後のウクライナ情勢によっては更なる原油高騰や世界経済の不安定化が懸念され、先行きに不透明感が強まっている状況である。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-100.0	0.0	0.0	-25.0	-75.0	-50.0	-50.0	0.0	-75.0
繊維・同製品	-25.0	0.0	25.0	0.0	-50.0	-50.0	-25.0	-25.0	-50.0
木材・木製品	-50.0	0.0	75.0	0.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0	-50.0
印刷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
窯業・土石	-50.0	25.0	50.0	0.0	-50.0	0.0	-25.0	0.0	-50.0
鉄鋼・金属	25.0	-25.0	25.0	0.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-50.0
一般機器	-50.0	-25.0	25.0	0.0	-75.0	-25.0	-50.0	-25.0	-50.0
製造業	-40.0	-4.0	32.0	-4.0	-52.0	-28.0	-28.0	-16.0	-52.0
卸売業	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	33.3
小売業	-85.7	-28.6	14.3	-14.3	-57.1	-57.1		-14.3	-57.1
サービス業	-16.7		-16.7	-16.7	-50.0	-33.3		-16.7	-50.0
建設業	20.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
運輸業	-75.0		0.0	0.0	-50.0	-25.0		0.0	-75.0
その他	50.0		0.0	0.0	50.0	0.0		0.0	50.0
非製造業	-25.9	-20.0	0.0	-7.4	-29.6	-25.9		-7.4	-29.6
全体	-32.7	-8.6	15.4	-5.8	-40.4	-26.9	-28.0	-11.5	-40.4

図表2 【指標別DI値の推移】

	3年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4年 1月	2月	前月比
売上高	-40.4	-21.2	-3.8	5.8	-3.8	-7.7	-15.4	-25.0	-25.0	-17.3	-5.8	-3.8	-32.7	-28.9
在庫数量	-8.6	-11.4	-20.0	-17.1	-14.3	-20.0	-17.1	-25.7	-8.6	-8.6	-20.0	-5.7	-8.6	-2.9
販売価格	-9.6	-3.8	-3.8	3.8	-5.8	3.8	0.0	-3.8	3.8	5.8	11.5	9.6	15.4	5.8
取引条件	-17.3	-11.5	-9.6	-9.6	-15.4	-11.5	-13.5	-17.3	-11.5	-17.3	-9.6	-5.8	-5.8	0.0
収益状況	-46.2	-34.6	-19.2	-3.8	-23.1	-21.2	-32.7	-30.8	-34.6	-30.8	-26.9	-26.9	-40.4	-13.5
資金繰り	-26.9	-19.2	-9.6	-13.5	-21.2	-15.4	-23.1	-23.1	-21.2	-15.4	-13.5	-15.4	-26.9	-11.5
設備操業度	-24.0	-20.0	-12.0	12.0	0.0	4.0	0.0	0.0	-8.0	-16.0	-4.0	-8.0	-28.0	-20.0
雇用人員	-11.5	-9.6	-11.5	-11.5	-11.5	-5.8	-7.7	-5.8	-15.4	-9.6	-7.7	-11.5	-11.5	0.0
業界の景況	-50.0	-36.5	-28.8	-13.5	-28.8	-25.0	-32.7	-36.5	-30.8	-19.2	-15.4	-38.5	-40.4	-1.9

特記事項

情報連絡員報告（令和4年2月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	仕入価格が上がっており、価格を上げたときの消費者離れが心配である。
	あん類製造業	輸入原料の高騰により国内産も高騰している。
繊維工業	染色繊維業	コロナの影響が収まらず、原材料・経費の負担が増加したが加工賃・売上に反映されず厳しい状況下にある。
	網・レース・繊維粗製品製造業	原料の高騰による値上げラッシュが続き、収益状況が厳しくなる中、ウクライナへの侵攻という大きな不安要素が生まれ、危機感を抱いている。コロナによる自粛政策とのダブルパンチで今後の日本経済の復活は、まだまだ先になると感じている。
木材・木製品	一般製材業	ウッドショック問題も収束の兆しをみせてきたが、現在の価格がどのように落ち着いていくのか注視をしている。ウクライナ情勢の影響は、ロシアからの輸入木材は過少であるため影響は極めて軽微と思われる。
	家具・建具製造業	販売価格を上昇する企業が増加した。また、前月よりも売上高、収益、資金繰りが好転する企業も微増傾向にある。ただし、ウッドショックの影響は長期化しつつあり原材料・資材の調達が安定せず、今後はウクライナ情勢による原油・原材料の高騰も予想され先行きの不透明感が強まっている。
印刷	印刷業	コロナ禍に加えて、原油高及び諸資材の高騰と需要減というハンデに知恵と工夫によって何とか切り抜けている状況である。公的支援を求めたい。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼関係は、昨年並みか若干増加傾向である。 肥料関係は、まずまずの出荷となった。 建材関係は、砕石、土質ともに昨年並の出荷であった。 全体では、昨年同様の出荷となった。
	陶磁器・同関連製品製造業	客足はまだ足りていない。コロナの影響で小売店の売上も伸び悩んでいる状況である。当組合の原料の売上においても減少している。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車部品・機械設備・金属プレス関連ともに、コロナ禍による売上低下、人件費増加、人手不足。
一般機器	一般機械器具製造業	令和4年2月の報告は前年同月と比較し、売上高が増加した企業、減少した企業、変化なしの企業（組合員）がほぼ同数となっており、一方では仕入資材の状況は相変わらず高値安定、一部調達が困難な状況も引き続き見受けられている。操業度（稼働）は変化なしといった状況である。引き続き今後の新型コロナウイルス感染症による感染懸念があり、不安はあるものの今後の動向に注視していく。
	一般機械器具製造業	急激な落ち込みは見られないが、停滞状態が長引いている感が否めない。
卸売業	各種商品卸売業	一部業種を除き全体として売上高、業況等は前年同期に比べ好転となっている。各社とも仕入単価の上昇が今後懸念されるとしている。
小売業	各種商品小売業	新型コロナウイルス感染者が急増するにともない、客足もピタリと止まってしまった。感染者が減少へと転ずるまでは当面厳しい状況である。
	花・植木小売業	2月トータルの市況は、入荷量が前年比で約93%、単価が同109%。葬儀件数は多かったが、オミクロン株などの影響から再び小規模な葬儀の需要が増加している。ブライダルはまん延防止の影響から激減し婚礼施設ではブライダルフェアなどで5、6月のブライダル獲得に動いているが状況は厳しい。全体的に厳しい状態である。

サービス業	旅館・ホテル	新型コロナウイルス第6波により宿泊は大幅な減少。宴会需要も無い状態。飲食店も蔓延防止措置により時短営業、収益は50%ダウンしている。
	給食センター	主力である産業給食の食数は減少しているが、コロナ療養者用の弁当が臨時で増えてはいる。また、コロナ禍で売上を落とさないため、スーパー向け惣菜事業など新規事業など色々挑戦してるが、食材費や原油価格の高騰のため黒字化には至っていない。
建設業	総合工事業	建設・建築材料の高騰と品不足が続いている。特に、ウッドショックをはじめ、発砲ウレタン断熱材等の納入ができず工期に影響を及ぼしている。
	職別工事業	昨年同月と比較すると、売上高においては若干ながら増加傾向にはあるものの原材料費の増加により利幅は減少傾向にある。
運輸業	貨物自動車運送業	燃料が価格高騰し、収益が上がらない。
	一般乗用旅客自動車運送業	まん延防止重点措置が3月6日まで延長になったが、毎日の感染者が一向に減少しておらず感染者の高止まりの影響等で夜の人流は大変少ない状況である。